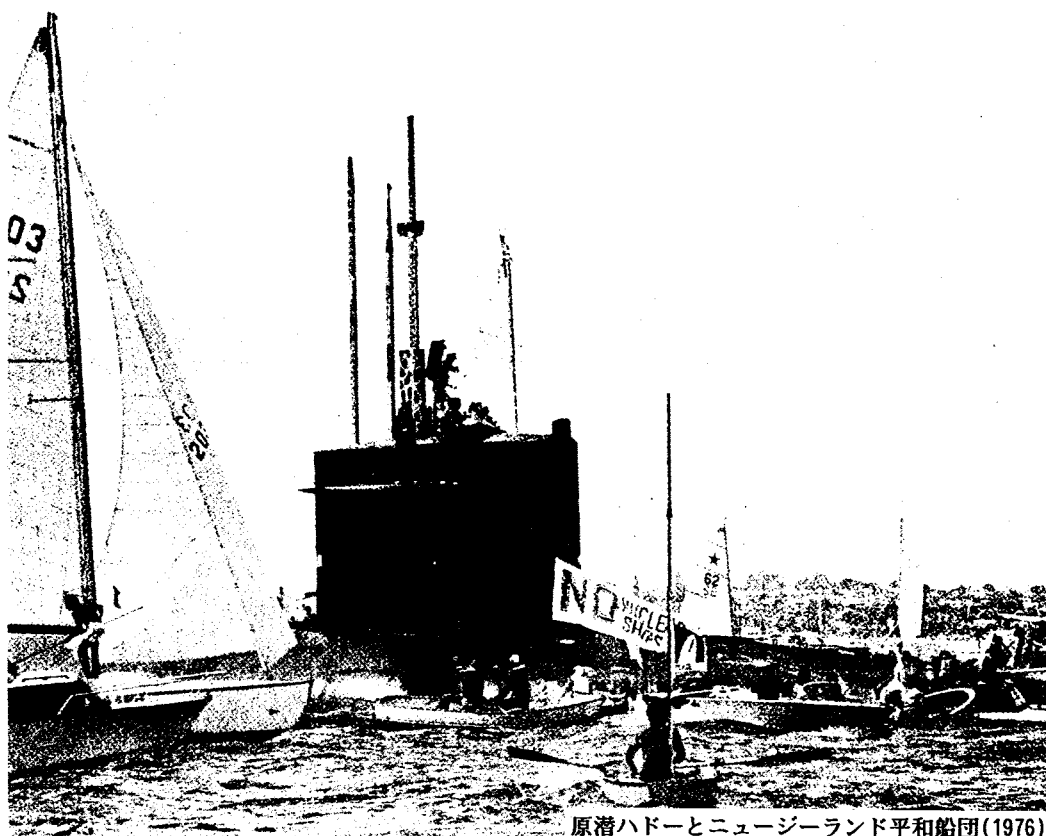


月刊反トマホーク通信

No. 24
87.10.20
定価 100円

東京都渋谷区渋谷 2-5-9 パル青山 502 トマ喉虫社 ☎03(498)6095
044(63)5101



原潜ハドーとニュージーランド平和船団(1976)

■核トマホーク搭載艦「ファイブ」の横須賀

母港化を阻止しよう！
(6ページ～7ページ)

□トム・ニューナム氏が語るニュージーランド平和船団 □日米
三軍統合演習今年は行われず □フィジー、ベラウ情勢

トマホークの配備を許すな！全国運動

●維持会員（月間会費）

団体 1日 2000円
個人 1日 1000円

●参加会員（月間会費）

団体 1日 1000円
個人 1日 500円

●通信会員

年間
2000円

あなたも仲間にな！

潜水艦に黄色いペンキをひっかけて みんなで「イエローサブマリン」を歌った

ニュージーランド平和船団 トム・ニューナム氏は語る

写真はトム・ニューナム氏
"PEACE SQUADRON" (平和船団) より



●潜水艦を取り囲む色とりどりのヨット、カヌー、モーターボートそしてウィンド・サーフィン。ワナにはまったモンスターのように立往生する核戦争の機械…。1975年以来、幾度となく繰返されてきた「平和船団」の行動はニュージーランド非核政策を生み出した人々の力の、最も鋭い一つとしてあった。8月の末、その「平和船団」の創始者、トム・ニューナム氏(60才、オークランド在住の元高校の中国語教師)が来日し、東京と横須賀で交流会が行われた。8月21日の東京での集り(主催:トマ喰い虫社)から氏の発言を採録する。[通訳:三輪妙子氏 文責:編集部]

皆さん今晚は。今夜は私たちの港に核艦船が来た時の抗議行動についてお話しします。ニュージーランドでは非核のための運動は、今のところ成功しています。でも、ニュージーランドでやってきた事がたやすいことだったという印象を皆さんに与えたくはありません。ニュージーランドも日本ほどではありませんが、生活レベルは世界の中では高いほうで、人々が核の危険性を見ようとしないうという点では同じです。でも、ニュージーランドはとても自然に恵まれた美しい国で、汚染の無い農産物を世界中に輸出できるので、道徳的な側面から物事を見なくても、経済的な側面から非核を保つていこうという人達がいまいます。また、人口が三百万人と少ないので、政治家が身近にいるということも運動を起こす上では有利といえるでしょう。

平和船団のような抗議行動は次の点で非常に重要だと考えています。まず第一には、人々の意識を高めるといことです。核艦船が港に入ってくるという事件について皆に知らせて、それに焦点を合わせる。マスコミも含めて、注目させるということです。また、多くの人々はデモをしたり、集会を持ったり、旗を掲げて歩いたりということにはだんだん飽

きてきている。でも、平和船団のような抗議行動は、とてもエキサイティングで面白い、楽しい。今までと違った抗議行動として人々は関心を持った。この行動には今まで反核、平和運動には殆どかかわらなかったような新しい人々が参加してきました。最初はただ見ているだけだった人も、あんまり面白そうなのですぐ参加してしまう。

もちろん危険だ。でも核戦争はずっと危険だから…

最初のアイデアは、アメリカのクウェーカの人達が、バングラディッシュがパキスタンから独立する時に、アメリカがパキスタンの船に弾薬を積込むのを、平和船団で阻止したことです。これはいいアイデアだ。ニュージーランドの港でも核艦船をこうやって船で止めようと考えて、ヨットを持っている人達に呼び掛けました。七五年のことです。

最初に来たのは巡洋艦「ロングビーチ」、核推進、核搭載の船です。この最初の抗議行動で私達は「ロングビーチ」を港の外で二度にわたってストップさせることが出来ました。大きなヨットもありましたが、サーフボードに一人で寝そべっていた人もいます。

もちろん危険です。誰もがこういう抗議行動は危険であることを知っていました。しか

し、核戦争というのはもともと危険な訳で、どちらの危険をとるのかということに皆がハカリにかけて、いくら危険でも自分の身を以て、核艦船を止める行動に出たのです。次に入ってきたのはその一年後で、原潜「ピンタード」でした。この時は、ニュージーランド海軍の船が先導してきました。しかも、海軍の船はヘリコプターを二機積んでいて、そのヘリコプターが風で平和船団の人々を妨害しました。風速は四十ノットにもなりました。ヘリコプターは近くに寄ってきて、風でヨットの帆を下ろさせたり、ヨットを横倒しに倒したりしました。これをマスコミは大きく取り上げました。テレビのニュースに出て、非常に視角に訴えるものでしたので、平和船団の運動はこれを機会に大きく盛り上

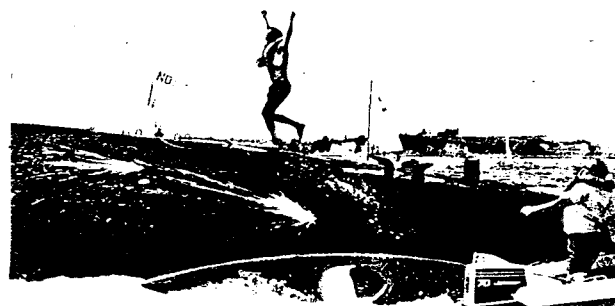
がりました。自分の国の軍隊が自分の国の人達にこうやっておそいかかるということは滅多にないことなので、大変批判が高まりました。港に降りた「ピンタード」の指揮官はすぐに日本に電話して、第七艦隊の上官に自分は大変な経験をした、と伝えました。私達の抗議行動は政府と、そして間違いなくアメリカを慌てさせているということが分りました。次にやってきたのは原潜「ハドラー」です。この時にはニュージーランド政府が湾内に適用していた規則を湾外にまで拡大したため、私たちは戦術を変えました。船をすべて一番港に近いところに集めたのです。これが効果的でした。というのは、もうこの頃には「国家的な出来事」になっていたもので、港のそばには人が鈴なりになって、あちこちから見ている。多くの人達が見ているために政府も、もうヘリコプターを使うことは出来なかったのです。小さな船を沢山集めて潜水艦の前に並べました。カヤック(エスキモーの小さなカヌー)に乗った人たちは潜水艦に乗っからうとしました。一人の男の人は実際に潜水艦に飛び乗ってしまいました。そして、タマゴのカラの中に黄色いペンキを入れたタマゴ爆弾を周りの小さな船から投げつけて、みんなでビートルズの「イエロー・サブマリン」を歌ったのです。これは新聞の一面に大きく取上

げられました。原潜に乗っていたアメリカ人たちはからかわれてしまったわけで、非常に機嫌が悪かったです。

「日本の解決法」なんてナンセンスだ

大きな行動はこれでお終いです。そして一九八四年にはニュージーランド国民の大多数が核艦船の寄港には反対であることがはっきりしたのです。この年の選挙の前から野党の労働党は核艦船の寄港を拒否するという政策を打ち出していました。平和運動は誓約書を用意して議員一人一人に署名を求め、それを公表しました。選挙は労働党が勝ちました。ロッキンギ政権は選挙公約を守って核艦船はニュージーランドには入れないという政策をとりました。アメリカからはものすごい圧力がかったのですが、その結果ご存知のように、ANZUS同盟からは追い出されましたが、私たちは追出されて良かったと喜んでいきます。

先週の土曜（八月十五日）にニュージーランドでは選挙がありました。これは核政策にとって一つの試練でした。余りにも国民の



原潜に飛び乗った人

反アパルトヘイト行動の経験が大いに役立った

平和船団はどういうふう組織したんでしょうか。具体的に……

船は一番多いときで約百隻、少ない時で五十隻位でした。ふつう一ヶ月前には何時、どんな艦船が来るかは分ります。まず、今日のようないんターネットをします。オークランドには割とヨットやボートを持っている人が多くて、小さいときから小さな船を自分で作って乗るというのが盛んに行われています。だから、ミーティングでボートを持っています人を募って、ボートとそれに乗る人を登録します。それから抗議行動の具体的なやり方を相談します。決めるのはごく大まかなことですが、細かい決めても海の上では、かならず予期しない事が起こるのであまり現実的ではない。参加する人々の意識にも色々あって、ただ船でそこについてアラカードの様なものを掲げるだけという人もいれば、もっと積極的に行動したいという人もいます。

それから、社会的に重要な地位にいる人も乗ってもらって、行動をみてもらうのも大

事です。オークランドの市長にも船に乗ってもらいました。勿論、原潜のすぐ側に行くような船ではありませんが。市長が乗っているので警察があまりひどいことは出来ない。

非常に役立った一つの体験は、アパルトヘイトに反対して、南アフリカとニュージーランドのラグビーの試合の中止を求めた抗議行動です。それに二十年間毎年取り組んでいました。たとえ、八一年には南アフリカのチ

たった一隻でも「帰れ」と声を上げるのが大事だ

核艦船がウィークデーに入港してきた時に、日本だと仕事のこととか、まず休みをとるのをどうするか、から始めて、職場の人達に知れたらとかいろいろな制約をみな感じると思うんですね。その辺はどうなんでしょう。

やはりニュージーランドでは職場の状況はもう少し緩やかなようです。例えば「ロングビーチ」の抗議行動に私も参加しました。教師という職業でありながら参加して、入港は夜明けで、結局学校に行くのがおそくなってしまって十一時。自分でも少々心配だったんですけど、他の先生達は一休だったのかニュースを知りたがっていました。私の場合はたまたま校長が意識のある人だったので、校長

ームが三ヶ月も滞在してニュージーランド中の各地で試合を行いました。私たちは三ヶ月間抗議行動を続けました。ある時には試合場に南アフリカのチームを守るために五千人の警官が動員されました。ある人は小型飛行機をチャーターしてそこから袋に小麦粉を入れた爆弾を落としたりもしました。このラグビーの試合もロッキンギ政権になって中止されました。

が意識がなければ何か処罰を受けたかもしれない。普通の会社に勤めていてもやはり同じだろうと思います。しかし、ニュージーランドの労働組合運動は強くて、反核平和運動を積極的に支持しているので、こういう運動に関わったことで例えば職を失ったら、それはそれで大きな問題になってすぐに抗議行動が起こるでしょう。

平和船団には女性は何の程度参加していますか。

平和運動全体では女性の方が多いですが、平和船団ではそれが逆で70%が男です。

僕も平和船団を日本でも是非やりたいと思っています。実は去年のちょうど今頃ロングビーチが横須賀に入港したとき



海軍のヘリが着陸した

に横須賀の人といっしょに平和船団をやったんですね。ゴムボート一隻だったんですけど。すごくいい経験で、とてもエキサイティングでした。

一隻でもそういうことをやるのは大変良いことだと思います。というのはアメリカの船に乗っている人々はどこにいても自分達は歓迎されるのだ、その国を守ってやるために来ているんだという意識があるからです。一隻でもあちこちで帰れという声が上がれば彼らもすこしは気付くのではないのでしょうか。



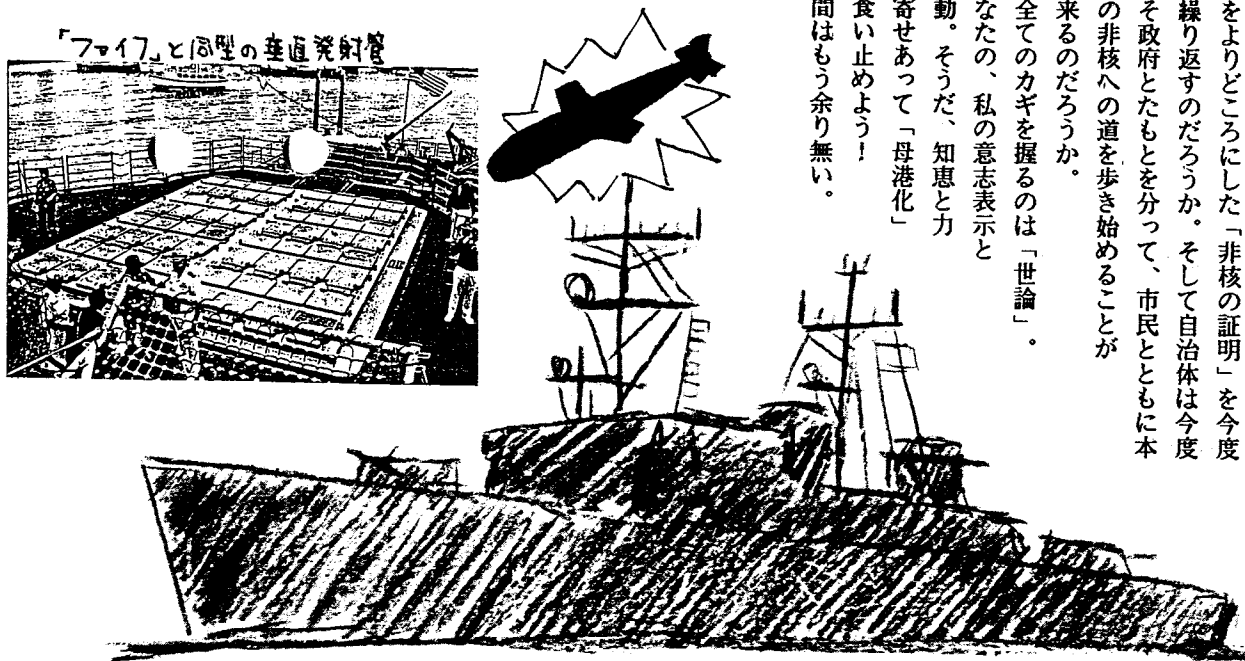
ファイトの横須賀母港化を阻止しよう！

INF（中距離核戦力）が地球規模で全廃されようとしている今、なぜ私たちは新しく海洋INF・トマホークの発射台を受け入れなければならないのでしょうか。

九月三十日、在日米海軍司令部は一九八八会計年度（八八年十月～八九年九月）に横須賀に海外家族居住計画に基づいて、スプルーアンズ級駆逐艦「ファイト」を配備することを発表した。「海外家族居住計画」にもとづく配備、つまり「母港」化である。乗組員と家族は横須賀へあるいはその近辺、例えば逗子（に）に居住地を定め、艦船は横須賀で整備・補修・補給を行い、横須賀を拠点に行動する。

「海の軍備撤廃を！太平洋運動」の調査によればこの「ファイト」は昨年十月からトマホーク用の垂直発射装置（VLS）の取り付け工事が行われており、最新の情報では、すでに工事は完了している。この発射装置は最大六十一発のトマホークを装着することができる。まさに「浮かぶ核発射台」である。横須賀に入港を繰り返している原子力潜水艦の「魚雷発射管型」発射装置と違って、こちらは横須賀港に停泊中でも発射可能。だからファイトの「母港化」は中距離核ミサイル（INF）・トマホークの「地上配備」とほとんど同じ意味だ。一九九二年を完了目標とするトマホーク配備計画が大詰め、クライマックスを迎えようとしているのである。垂直発射装置には、トマホーク以外にも対潜ミサイル、スロックや対空ミサイルを装着することも可能だ。日本政府はこれをタテにとって、「米側からの事前協議がない」こ

とをよりどころにした「非核の証明」を今度も繰り返すのだろうか。そして自治体は今度こそ政府とたもとを分けて、市民とともに本当の非核への道を歩き始めることが出来るのだろうか。すべてのカギを握るのは「世論」。あなたの、私の意志表示と行動。そうだ、知恵と力を寄せあつて「母港化」を食い止めよう！時間はもう余り無い。



トマホーク搭載予定艦

1年以内に横須賀配備

在日米軍発表
87.9.30 朝日

在日米海軍司令部は三十日、神奈川県横須賀市の在日米海軍基地に海外家族居住計画に基づいて配備されている十隻の艦船のうちフリゲート艦二隻に代えてスプルーアンズ級駆逐艦「ファイト」（七、八〇〇、三百二十人乗りの組）とミサイルフリゲート艦ロッドニー・M・デービス（三、五八五、二百人乗りの組）を一九八八会計年度（今年十月～来年九月）中に配備する、と発表した。

横須賀配備予定の米水上艦

すでにトマホーク発射装置

省防総省
87.10.14 朝日

スプルーアンズ級駆逐艦は核巡航ミサイル・トマホーク搭載予定艦。
米国の反核運動団体「海の軍備撤廃を！太平洋運動」が入手した資料によると、ファイトは昨年十月から垂直発射式トマホークを搭載する改造工事が行われている、という。同級の三十隻に装備箱型発射式トマホークが搭載されている。一隻のうちの五隻には「ク」が搭載されている。第七艦隊の能力増強を図るも

【ワシントン十三日】岩村特派員 在日米海軍司令部が来年九月までに横須賀基地に配備する、と発表したスプルーアンズ級駆逐艦「ファイト」（七、八〇〇）は、巡航ミサイル・トマホーク用の垂直発射装置（VLS）をすでに装着済みであることが十二日までに判明した。トマホークを装備できる米水上艦

が横須賀に配備されるのは、これが初めてとなる。
米国防総省によると、米海軍がトマホーク発射装置を取り付ける三十一隻の水上艦は、スプルーアンズ級、バーク級、スプルーアンズ級、タイコンデロガ級巡洋艦、ファイトは、今年になって発射装置が取り付けられた。

この発射装置は、トマホークのほか、対潜ロケットのアスロックも装備することができるといふ。民間の軍事専門家の見方では、米海軍は通電弾頭と核弾頭を合わせて三千九百発のトマホークを水上艦艇に順次装備していく、と述べている。だからファイトにトマホークが積まれるのは確実、とされている。

日米共同演習 の動向

「実質的」「三軍統合演習」を常態化

青木 雅彦（京都）

昨年十月の「キーン・エッジ八七」（初の日米三軍統合実動演習）から約一年。これによって新段階にはいった日米共同実戦体制を背景に、それ以降も、「最大」、「初」と形容のついた日米共同演習が相次いだ。今年は日米の三軍統合演習は実動でなく、指揮所演習（七月に実施）のみであったが、実戦化へのエスカレーションが一段落した訳ではない。それどころか、八七年度のこれまでの日米共同演習を振り返ってみると、演習計画の作成者はいわば「名を捨て実を取る」戦略に転換したように思える。それはこれまで陸海空バラバラだった共同演習日程を、重ねる、あるいは接続することで、訓練を限りなく三軍

統合（ただし日米共同作戦は「海空」が中心になるが）演習に近づける「実を取る」傾向が最近顕著だからである。以下に八七年度の主要な日米共同演習の概要を記す。これを日程表の形にして眺めて頂ければ、この実情を納得してもらえると思う。

「五月」五・一一～五・一五に北方空域で空の共同訓練。全く同じ日程で海の日米共同指揮所演習（初めて五地方総監部も参加）。その直後五・一九～五・二八に米で陸の共同指揮所演習。これには海・空の自衛官も「支援参加」。

「七月」八六年二月に続いて二度目の三軍統合指揮所演習が七・一三～七・一七に行われたが、これは小松沖の空の日米共同訓練と同日程。海では七・一五～七・二四にカリフォルニア沖で海自が米軍の「コンプチュエクス」演習に参加。これらの演習は、陸自の過去最大規模の「北方機動演習」（北海道への部隊展開訓練、七・三～八・一〇）の往路演習（海・空自も参加、七・三～七・一二）の直後であることも注目。

「九・十月」九・二四～九・二八に海自がミッドウエーなどと共同訓練を行い、その後十五～十八に行われた史上最大の空の日米共

同訓練に、海自と陸自も参加。その直後十・九～十・一二に陸自が二度目の「敵の海兵連隊の着上陸阻止」の訓練。共同演習ではないが、来年の「キーン・エッジ」につながる訓練だ。

ちょうど一年前、この通信（十二号）で、「キーン・エッジ」に続く「更なる一歩」として予想したこと——新米軍基地建設（三宅島「気象観測塔」設置強行）、強襲上陸演習の地獲得（北海道大樹海岸）、陸の共同演習の「全国巡業」（今年は十一月、大分県で九州初の共同演習）——がもうすべて実現してしまふ事態の急展開は、戦慄を覚えるほどである。そして来年には二度目の「キーン・エッジ」が、「リムパック八八（環太平洋合同演習）」——日米加英（？）濠洲軍参加の対ソ海洋戦——「チームスピリット八八（米韓合同演習）」——西側最大の演習——と共に実施される。歯止めなき核軍拡の続くこの北西太平洋の異常な磁場の中で彼らはその刃を研ぎ続けている。私たちの監視の目が厳しすぎ、行動が早すぎることは決してない。

（十月五日記）



フィジー、ビチレブ島の山村で（写真提供 竹下道夫）

フィジーからの手紙

世界はフィジーで

何が起きているかを知るべきです

親愛なる友人たちへ

もっと早くお便りしなかった事を申し訳なく思います。しかし、私はこのところ体の具合が悪く、仕事もたいそう忙しかったのです。クーデターが成功して一週間後の自由が回復された時期に、驚くほど自由だった私たちの出版物からのいくつかの例を送りしよとは努力しました。

もう一度、だらしのない仕事ぶりをおわびします。私は一週間はデング熱で、その後は心臓病で寝込んでいました。お願いがあります。フィジーの状況を出来るだけ沢山の人々と分かちあってください。世界はフィジーで何が起こっているかを知るべきです。私は皆さんにはそれらを整理する時間と力があるものと信じます。フィジーではクーデター以来「非合法」のビデオが作られているとの情報もあります。私のFANG（フィジー反核グループ）のための仕事のほとんどは、長い一日の仕事を終えたあとの夜七時から十時の間にやっています。

平和の友人たち、どうか人種差別主義と独裁政権、そしてクーデターの主犯者ヴァーノン・ウォルターズ（米国連大使）への抗議の声を高めることによって、私たちを助けて下さい。

一九八七・九・三〇

署名

「反トマ通信」No 20で紹介したクーデター直後の手紙以来、音信の途絶えていたフィジーの友人からの便りが届いた。

（訳 編集部）

政変の背景にあるもの

フィジーは
どこへ行くのか

竹下道夫(大学院生)

9月25日、フィジーで再びクーデターが起こった。いったい、フィジーで何が起きているのだろうか。

フィジーという国と私たちは観光の島というイメージをもっている。それは間違いではない(事実、この国の収入源は、主に、観光と砂糖産業)。しかし、それ以上のことはあまりよく知らないのが現状だ。

この夏フィジーを訪れた私は、まず、「え、こんなに暑いのか?」と思った。実際、8月は暑い、いや、寒くないのだ。そして、この国が意外と大きな山国であることにも驚いた。首都のスパからトラックとボートを乗り継いで山村に行くと、そこには豊か

で牧歌的な山村風景が広がっている。夜はみんなジャンパーを着ている。同じ太平洋の島と行っても、ミクロネシアの島々とはずいぶん違う。

■なぜフィジーにインド人が?

フィジーには、二つの主要民族がいる。フィジー人(先住フィジー人)とインド人(インド系フィジー人)。フィジー人はもともとフィジーに住んでいた先住民。では、インド人の方はどうしてフィジーにいるのか。19世紀、イギリスの植民者たちが、そくそくフィジーにやってきた。彼らの目的は、やしや砂糖きびのプランテーションを経営することだ。彼らは、フィジー人を労働力として使わず、かわりに、最初ほかの太平洋諸島から、次に(一九八七年から)インドから労働力を連れてきて働かせるという方策をとった。インド人は、年季契約労働制度と呼ばれる奴隷制に近い過酷な状態で働かされた。のち、この制度が廃止されても、インド人の多くはフィジーに残り、次第に商工業部門、熟練労働部門へ進出していった。そうして現在では、インド人の方がフィジー人より人口が多い。現在の人口七十一万五千人のうち、フィジー人

が46%なのに対し、インド人は49%を占めている(残りは、欧米人、中国人、他の太平洋諸島民)など。

こうした事情を背景に、フィジーの政治制度は少々複雑だ。フィジーは一九七〇年に独立した(イギリス連邦にとどまる形で)が、その際、国会選挙について、独立前からの選挙制度、つまり民族別選挙制度を継続させた。つまり、インド人は、自分の地区のインド人代表を1人選出、それに加えて、全国区のインド人、フィジー人、「その他」から各1人選出(計4人選出)。フィジー人の場合も同様。独立前から、政治は、フィジー人優位だ。だから、数の上では差があるのを、こうした選挙制度でカバーしようとした。

政党は、もともと、フィジー人系の同盟党とインド人系の国民連邦党があるが、独立以来、ラツ・マラ元首首相率いる同盟党が、一貫して政権を担当してきた。ラツ・マラ元首首相の「ラツ」は、酋長の称号である。この国では、フィジー人酋長の力が絶大だ。酋長制度は、単に伝統的なものというより、イギリス植民地支配および独立後の政治と深く結びついた代物だ。全国レベルの酋長評議会(もともとイギリス支配下のフィジー人自治政府的なものだった)は、政府に対し種々の勧告を

行うことのできる立場にある。そしてこの酋長評議会は、フィジーの東地区の大酋長層に牛耳られている。今年3月まで17年間つづいたマラ同盟党政権は、酋長層および資本家層を中心に、長期政権の常として、次第に腐敗政治・利権政治へ傾いていったといわれる。

■労働党の誕生と勝利

そうした中、一九八五年にフィジー労働党が結成されたことは、この国の政治にとって画期的なことだった。元保健関係公務員ティモシ・ババンドラ博士を党首とする労働党は、進歩的な政策を掲げ、労働組合はもちろん、インド人や、都市及び西地区のフィジー人、特に若いフィジー人を中心に、急速に支持を伸ばしていった。そして、結成してわずか二年後の今年四月、国会選挙において、国民連邦党と連合を組んで勝利をおさめた。初の政権交替である。

ところがそうしてババンドラ政権が成立した直後から、タウケイ運動という、フィジー人の非常に右翼的・排外主義的な運動が始まった(「タウケイ」とは、フィジー語で「もともとの所有者」という意味)。インド人のあまりいない地区を中心としたこの運動を、

ある人は、「上からの、多分にイデオロギッシュな運動」と評した。

■二度のクーデターの意味は?

そして5月14日、ランブカ中佐(当時)が、クーデターを起こす。これを総督、マラ前首相、酋長評議会が支持した。

クーデターにCIAがからんでいるという噂、マラ前首相はクーデター計画を知っていたという噂が根強くある(前号参照)。確かに78年以来的の中東へのフィジー軍派遣はアメリカと協力関係にあるし、83年にはアメリカ核艦船寄港容認へ政策転換している。さらにアメリカが基地用地を求めている(バヌア・レブ島に)ということも暴露されている。反核政策を掲げるババンドラ政権の登場は、アメリカにとって脅威だったに違いない。

また、大酋長層や同盟党のエリートたちにとっても、労働党政権は脅威だった。そうした支配層の集りと、タウケイ運動などにあおられたフィジー人たちの反インド人感情とが、ランブカ中佐のクーデター成功に結びつく。ランブカの掲げた目標の一つ「憲法改正」、つまり、国会でのフィジー人優位を絶対なものにすること、は、憲法再検討委員会の設置

という形で成就される。憲法再検討委員会は酋長評議会の意向を大きく受け入れ、71議席中41議席をフィジー人に割り当てるなど、フィジー人絶対優位の憲法改正案を答申した。さらにタウケイ運動支持者たちの暴力行為がこの間つづいた。

しかし、9月中旬になって、同盟党と労働党・国民連邦党との間の話し合いが急速に進む。9月22日には、両派から閣僚を同数出す形での暫定内閣をつくることで合意した。憲法改正問題については、「フィジー人の熱望を十分考慮しつつ、公正で調和的な多民族国家をつくる」ことを前提に、先の答申を検討する、ということに合意した。

そして翌週にも暫定内閣が成立しようとしていたときに、ランブカ大佐が再びクーデターの挙に出た。9月25日。ランブカ大佐は、排外主義的なタウケイ運動とのつながりを強め、共和国化の方向をうちだした。しかしこれはガニラウ総督もマラ元首首相も受け入れることをせず、今のところランブカ大佐は、政治的に孤立している。

フィジーはどこへいくのか。正直言って、予想はつかない。フィジーで会った人たちの顔を思い浮かべながら、不安でいっぱいだ。太平洋の島が、ここでもまた「政治の季節」を迎えてしまったということであろうか。

会計報告

(87.9.12~10.14)

〔収入〕

○前月からの繰り越し 55,180

○会費収入 154,000

内 訳	維持団体	76,000
	維持個人	31,000
	参加団体	24,000
	参加個人	8,000
	通信会員	15,000

○カンパ 12,550

○在庫品売り上げ 2,650

○反核ホットライン 2,820

(会費、パンフ売り上げなど)

<計>

241,200
227,200

〔支出〕

●家賃 40,000

●郵送費 81,050

●印刷費 24,060

●会場費 31,270

●反核ホットライン経費 4,360

●手数料(郵便振替) 780

●次月への繰り越し 44,080

<計>

241,200
227,200

ベラウに支援を！

ベラウでは心痛む事態が進行しています。

前号(N023)で急報したとおり、私たちのよく知っている反核運動のリーダー、ローマン・ベドール氏、そしてバーニー・ケルダーマンさんのお父さんであるベドール・ビンス氏がベドール氏の事務所で暗殺されました。ベドール氏は犯人は自分と人違いに違いないと語っているとのことでした。

またこのような生命の危険を感じるような状況の下で、三十人余りの女性が起こしていた八月四日の改憲が違憲だとする訴訟は取り下げられました。反トマ全国運動ではベドール氏におくやみと励ましの手紙をカンパを添えて送りました。皆さんもどうか手紙を書いて下さい。そして「自由連合協定に反対するベラウの人々を支援すること、このような暴力下での協定は無効であること」との手紙を国連の信託統治委員会に送ることが今必要な支援です。

●手紙の宛先は—

☆ローマン・ベドール氏

Roman Bedor

Belau Pacific Center

P. O. Box 58, Koror

Belau 96940 USA

☆国連信託統治委員会

U. N. Trusteeship

Council

Room S-3250,

United Nations

N. Y. NY 10017, USA

コピーを次の所にも送って下さい

U. N. Special Committee

of 24

Room S-3341,

United Nations

N. Y. NY 10017, USA

月刊反トマホーク通信

No

24

*発行

一九八七年十月二〇日発行
トマホークの配備を許すな全国運動
(東京都渋谷区渋谷二一五九丸
青山五〇二 トマ喰い虫社

*編集

反トマホーク通信編集委員会

*定価

一〇〇円(通信会員年間二〇〇円)

〇三(四九八)六〇九五
〇四(六三)五一〇一

反核ホット ライン ③ だより

あなたのホットラインは作動していますか。横須賀について原子力潜水艦ギターロが入港しました。(ギターロ入港については次項参照)。その情報に接したときホットラインがあつて本当によかつたと思ひました。それとともにホットラインがどれほど有効に働くか試されていると思ひました。

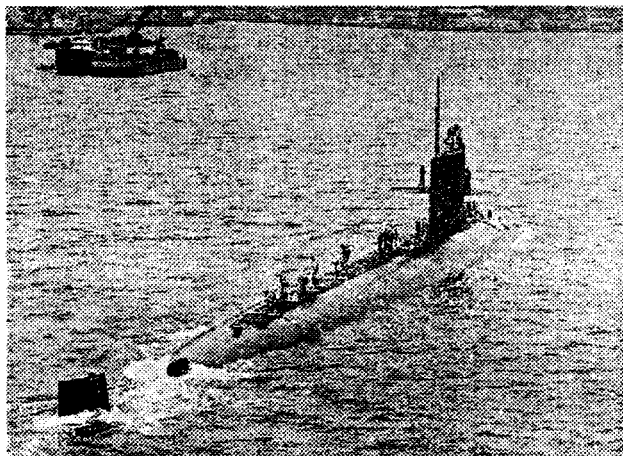
あなた自身はがきを出せましたか。

何人くらいの友人・知人に連絡できましたか。

そして、まだホットラインに参加してないあなた、この試みに参加して下さいませんか。

ギターロ横須賀にも入港

前号の本たよりにギターロが8月29・30日佐世保に入港したことを伝え、「次は横須賀が狙われるでしょう」と書いたのですか、わずか一ヶ月でそれが現実となりました。



入港する米海軍原子力潜水艦ギターロ
—横須賀港で朝日新聞社ヘリコプターから

ギターロはスタージョン級の原子力潜水艦です。型式としては、最新型のロサンゼルス級よりも一時代古いものですが、トマホークを真先に装備しテスト艦として使われてきたものです。魚雷発射管にトマホークを装着している写真も公表されています。私たちの非核コードでは390点が与えられています。トマホーク装備前の一九七五年と一九八〇年に横須賀に入港していますが、トマホーク装備後横須賀に入港するのは今回が初めてです。七年ぶりのテスト艦の入港は、トマホーク時代の到来を意味する一つの重大な事件です。

ホットライン運営の現状について

ホットラインの運営システムは試行錯誤しながら改善されて来ましたが、とりあえず現状を整理します。

一、ホットラインに参加していただいたときに、年会費二千元をいただくとともに、次の品物をお送りします。

① 非核コード表 1部
② 要請はがき横須賀用(四連はがき) 10枚

③ 要請はがき佐世保用(三連はがき) 3枚

年会費は右の代金とともに、その後の連絡用電話代、通信費に当てられます。

二、非核コード表で百点以上のトマホーク疑惑艦およびロサンゼルス級原子力潜水艦が横須賀もしくは佐世保に入港したとき、センチター(トマ喰い虫社)より参加者(キー・ステーション)のみなさんに電話連絡します。参加者のみなさんは電話を受けて要請はがきを出すとともに子供(ターミナル)に電話連絡して下さい。そのため、参加者のみな

(裏面につづく)

原子力艦入港情報 テレホンサービス

ブッシュホンで、まず 井8301、そして連絡番号 968・1071、次に暗誦番号 1071
クロハ イレナイ イレナイ

(表面よりつづく)
 さんはつかまり易い時刻と電話番号の登録をお忘れなく。

三、東京から六十キロ圏内では、テレホン・サービスで毎日おおむね午前十時～午後六時の間、その日の原子力艦入港情報を流します。テレホン・サービスについては表ベージ最下段の広告を参照して下さい。

四、追加の品物は次のように有料となります。参加者がキー・ステーションとして何人に連絡するかによって品物の必要量も変わってきます。品物を切らさないように早目に請求下さい。そして、子供の手元に届くようにして下さい。

① 非核コード表 1部100円、20部以上50円。(いずれも送料別)

② 要請はがき横須賀用(四連) 一枚15円(送料別)

③ 要請はがき佐世保用(三連) 一枚10円(送料別)

④ 非核コード解説編 一冊200円(送料別)

五、月に一回この「反核ホットラインだより」を発行する。当面は「反トマホーク通信」におこむ。

六、艦船入港時に自治体に届いたはがきの数をモニターすることは、横須賀入港に関してはやがて可能になります。

運営に関する意見、提案があれば、ぜひお寄せ下さい。

入港情報

9・20～10・19

9・29 原子力潜水艦バーミット(バーミット級)、午前9時半、ホワイトビーチ(沖縄)に入港、午前10時に出港。

9・29 原子力潜水艦フラッシャー(バーミット級)、午後3時、横須賀に入港。

10・7 フラッシャー、午後3時、横須賀を出港。

10・13 原子力潜水艦ホノルル(ロサンゼルス級)、正午、横須賀に入港。

10・16 原子力潜水艦ギターロ(スタージョング級)、正午、横須賀に入港。

10・17 ギターロ、午前8時、横須賀を出港。

※今年の原子力艦入港回数(10月19日現在)
 横須賀 20回(うち原潜20回)
 佐世保 4回(うち原潜3回)

ホワイトビーチ 8回(うち原潜8回)
 計 32回(うち原潜31回)

※沖縄のホワイトビーチへの原潜寄港回数は今回で復帰後の最高を記録しました。これまでの最高記録は72年の年7回でした。

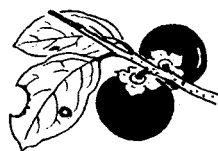
※横須賀への寄港回数がやや少な目な印象を

わかり易い問題提起のパンフ

与えますが、実は昨年の同時期と比較して一回少ないだけのペースです。

短

信



アース・トンネルの国道一依佐美基地

●あいち反戦の会は「月一行動」の名で米海軍依佐美通信基地の周辺住民への訴えと基地調査を続けている。最近、アンテナの鉄塔群の真下を横切って国道419号線が一部開通した。アンテナの誘導電流が発生して感電する危険性があり、アース・トンネルの長い列にはさまれた「核戦略のモニメント」のような道路である。

自治研大会で非核コードの訴え

●十月十四～十七日、自治労の地方自治研究全国集会が横浜市で開催された。十六日の平和・基地・反原発の分科会で反トマホーク運動の梅林さんが非核コード、反核ホットラインの考え方を説明、神奈川での実践を紹介した。丁度ギターロ入港の日で緊迫した訴えとなり、各地からの参加者の関心は高かった。

反核運動における二つの鍵ー非核自治体と核艦船寄港

読者から説得力があると好評を得ています。ぜひお読み下さい。
 一冊 六〇〇円、十冊以上 二割引き(いずれも送料別)